



国際的共同教育プログラムの運営に携わって 私とエラスムス・ムンドゥスとの6年間

2005年のある日のこと、私のクラスが来年の秋からエラスムス・ムンドゥスの奨学金を受けた学生を受け入れることになることと聞かされました。その時まで、私はEUのエラスムス・ムンドゥス・プログラムについて聞いたことさえありませんでした。ロンドン大学教育研究院(IOE)は外部資金を求めて、「ヨーロッパ生涯学習修士:質とマネジメント」(MALL)の申請書を提出していたのです。この申請はコペンハーゲンのデンマーク教育大学が中心となって進めたもので、それによって新たなMALLのコンソーシアムが公式に形成されました。そこにはスペイン・ビルバオのデウスト大学も含まれていました。

あらゆる国々からやってくる学生とともに学び、新しい土地を旅し、そして新しい同僚たちと協力し合う機会は、初めのうちは大変魅力的でした。しかしながら、この新しいコースを開設するのにどれほどの時間と労力がかかるのか、現実的に想像できる者は、私たちの中には誰一人として——少なくともIOEの中には——いなかったのです。見知らぬヨーロッパの都市を旅すること、そしてブータン、エチオピア、アルメニア、キルギスタンなどのエキゾチックな国々からの申請書を受け取ることから生じる初めの頃の興奮は、まもなく多くの国家から成り立つEUが資金提供するプログラムを運営することに由来するじつに複雑な実務に取って替わることになりました。

EUエラスムス・ムンドゥスの諸規則は、私たちにフレームワークを提供し、その中で私たちは働かなければなりません。これらの規則はプログラムが2年間継続するであろうこと、学生はヨーロッパの異なる国において最低2年間、学ばなければならないこと、学生はヨーロッパ単位互換システム(ECTS)の下、一定数の単位を取得すべきことを明記していました。

しかしながら、この計画はヨーロッパの高等教育を促進することを意図していたにもかかわらず、エラスムス・ムンドゥス・プログラムのマーケティングのための資金はなかったのです。マーケティングなどの活動が鍵であるにもかかわらず、EUの官僚的な手続き、そして突然の規則変更もまた、計画の進行を困難にしたのです。少なくとも、最初の何年かはそうでした。たとえば、エラスムス・ムンドゥスの最初の3年間は、奨学金全体のうちの、およそ4分の1はインドの学生を対象としておりました。資格を備えたインドの申請者を十分な数だけリクルートすることの困難さに直面し、MALLコンソーシアムは集中的な、2週間にわたるインドでの「ロードショー」に資金をつぎ込むことを決断しました。デンマークの同僚と私は、5つの都市で売り込みの面談を行いました。ヨーロッパに戻った2週間後、EUは即効的な効果を求めて、奨学金をインドの学生を対象とすることを中止しようとしていると知らされたのです。

資格を備えた奨学金候補生を十分な数だけ見つけ出すことが最初の2年間の戦いでしたが、その後は申請書の数と質は大いに改善しました。それは主に卒業生や現役学生の口コミの結果でした。それにも関わらず、申請書の評価基準をめぐって、

パートナー機関との間に、とりわけ入学基準である英語能力の最低基準設定の重要性に関連して緊張が生じました。デンマークのコンソーシアムの責任者は、IOE側の英語能力に対する主張はイギリスの文化的帝国主義の病状だと解釈しているように思われました。彼はまた、MALLの学生を除けば、留学生がほとんどいないデンマーク教育大学への留学生を最大限に獲得することをとくに強く望んでいたのです。3年後、何人かの学生が必要とされるIELTSの点数を取れなかったにも関わらず、デンマーク教育大学でこのプログラムに入学することを許可されてきたことが発覚しました。彼らはIOEの入学基準を満たしていなかったため、私は彼らに修士論文を書くためにロンドンに来ることは許されないと断らねばならなかったのです。そこから生じた議論は、IOEとデンマーク教育大学の同僚たちとの間での、危機的な信頼喪失につながりました。最終的には、デンマーク教育大学がコンソーシアムのコーディネーターを更迭することによって解決しました。

国際的共同教育プログラムを運営したことのない者にとって、どのような事柄が関係してくるのかを予め察知することは困難です。運営する者にとって、複雑なプログラムがスタッフに押しつけてくる要求の通りに取り組むことは、あまり気乗りすることではありません。もっとも、彼らは絶対にそうしなければならないのですが、昨年、ロンドンを去るとき(東北大学での国際会議の2ヶ月後のことでした)、EMLLLのコースリーダーとしての私の仕事は、今後は2人の同僚に引き継がれることになりました。同僚たちとEMLLLコンソーシアムを運営するのに費やされた莫大な時間と労力について振り返りながら、私たちはしばしば自問しました。「やる価値があったのかな?」。最後には、優秀な学生たちに出会えたということだけではないにせよ、「やる価値があった」と私たちの意見は一致しました。学生たちの多くはすばらしく才能に恵まれ、人生の一時期、エラスムス・ムンドゥス奨学金を獲得し、本当に優れた研究を生み出しました。その一方で、彼らは世界中からやってくる他の学生たちとの将来にわたる友情も確立しました。何人かの学生は博士号を求めて旅立ちました。私は、近い将来、私たちの卒業生が教育界のリーダーとして重要な地位に立つことになると信じて疑いません。そのようなことを思い浮かべることが、大いに満ち足りた思いの源泉になっているのです。



アジア八大学による国際シンポジウム開催 国際的共同学位による新たな人材育成の可能性を探る



国際的な人材育成を どう捉えるか？

【北京師範】 語学は必要。国際化とは国際関係科目を学ぶのではなく、世界の最先端の成果を学ぶこと。また、学生をどんどん海外に出して、広い視野を身につけさせることが必要。

【華東師範】 共同学位を考えると、各国の文化、各国の教育課題は異なる。そこを利用し、ケーススタディや実験教育を通じて、臨場的な授業を行えば、その多様性が逆にメリットとなる。

【南京師範】 自国の文化や教育状況をしっかり踏まえた上で、国際的な視野を持った教員。国際共同学位をすすめるにしても、基礎的訓練を2年間の修士のうちで1年間以上を学ばせた上で、それぞれの国で異なる教育状況の中で実践に対応させたい。

【高麗】 世界的なレベルの学生を育てるために、積極的に国際化を進めている。魅力的な施設を建てたり、留学生の授業料を半額にしたり、交流促進のための学生ケアを用意している。その結果、留学する学生や高麗大で学位を取ろうとする留学生が増加した。

【ソウル国立】 教育はローカルな問題でもあり、グローバルなものである。我々はGLOBAL=Global Leadership with Open & Balanced Appreciation of Local needを目指している。それぞれの国の教育問題の解決やニーズを考えられる、開かれたバランスのとれたAppreciationのできる国際的なリーダーを育成したい。

【国立台湾師範】 多くの学生が、留学先の地元での文化に触れて帰ってくる。そのような交流のイベントプログラムをたくさん設けている。また、マレーシアでは学ぶ場所が少ないカウンセラーの資格を学びに来る。それが国際的な交流の目的である。

【国立政治】 サマーセミナーを中心にしている。共同学位については、あまり目指していない。学生を一括してサマーセミナーに連れて行くなど行っている。

カリキュラムについての考え方は？

【北京師範】 教育のコアとなるAPICモデルを導入している。①A=アカデミックな理論、②P=実践的な能力、I=国際的な視野、C=心理追究や批判的思考力などのクリエイティブ。

【華東師範】 ①最も重要で基盤となる学術的な知識、②その上で、分野融合的・横断的な授業、③新しい科学的成果の反映、④その上で、上海で国際的に特徴ある、華東ならではのカリキュラム開発をめざす。

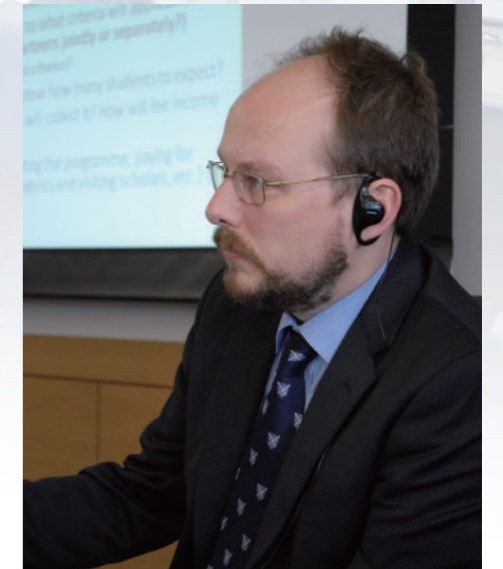
【南京師範】 教育問題についての考えを捉え、教育理念を理解するために、①必要な基礎的な訓練+その分野の第一線の成果+研究方法論の獲得。その上に国際的な視野を身につける。

【高麗】 35%の授業を英語で行い、さまざまな交流プログラムを進めている。その上で、①Global Standard=TOEICなどの点数習得を掲げ、②Global Network=海外の大学に高麗大学独自の寮を立てて学生を滞在させる。また、高麗大でのさまざまな留学生交流イベントを用意する。さらに③Global Scope=教育学部では、学生を4週間以上海外インターンシップに行かせるプログラムを用意している。

【ソウル国立】 Global Education Visionをつくり、LEARNing=Literacy, Experience, Aptitude, Research and Networking for Global Educationを策定した。これに基づいて、学生は、知識や理論の習得、国際交流やボランティア、英語での実践などを進めている。

【国立台湾師範】 (後述するように)3つのデュアルディグリーのシステムがある。特別なカリキュラムを設定したりするのではなく、今ある相互のカリキュラムをベースにして、デュアルディグリーの制度を設計した。それが現実的である。

【国立政治】 教師として必要な12のコアコンピテンシーを中心に、教師としての全人的な教育を行っている。授業方法は、暗記中心の授業を、多様な教育方法へと変えている。問題解決やディベートなどを授業に取り入れることで、将来の教師として多様な授業ができるようになる。また、社会的なボランティアやブログをつけさせることで、全人的な教育を行っている。



どのような資質の学生を養成しようとしているのか？

【北京師範】 もっとも歴史ある教員養成大学であるので、高いレベルの資質が求められている。また、Contemporary Development of Chinaなど、現代中国の課題について考えるコースを設けている。

【華東師範】 エリート育成から専門家育成にシフトした。心理学でも「応用」をキーワードに、地域社会に学生を出て行かせ、「科学商店」を開いている。住民のカウンセリングや、小中学校での不登校などの問題に取り組ませている。

【南京師範】 むしろ、学校での専門となる業務に応える力と、多様な要求に応える力を基盤とし、応用ができる力が必要である。そのため、1年以上はきちんとした基礎的な訓練を行う必要がある。その上で実践に対応できるようにしたい。指導教員を2人にして、1人を大学教員、もう1人を第一線で活躍する学校教員などにもしている。

【高麗】 ノーベル賞受賞者を講演に招いたりして、世界的なレベルと視野を持った学生。多くの交流プログラムを用意し、日常的に交流す

るイベントを用意したり、海外の学校で実習を行ったりすることで育成できる、国際的な学生。

【ソウル国立】 まず、ソウル大学は研究中心大学であり、学生が世界中で活躍することを望んでいる。教育学部では、「Global Education Vision」を作った。この「GLOBAL」教育の目的は、開かれた思考を持ち、また自分たちの国の、ローカルなニーズに基づいてバランスの取れたものを見方をする国際的なリーダーを育てることにある。

【国立台湾師範】 多くの学生が、留学先の地元での文化に触れることを望んでいる。学生は、留学によって、言語の習得、異文化体験、専門の勉強に加え、国際的視野を得たと述べている。また、自国とは異なる学習方法に触れたこと、留学によって自分の文化を再認識したことも重要。

【国立政治】 教師としての専門性だけでなく、「将来の知識人」を育てることを目的としている。「書院」という考え方で、キャンパスの全生活の中で教員を育てるべきである。

国際化や共同学位に関する特徴的な取り組みは？

【北京師範】 英語で教え、英語で修士論文を書かせるコースをつくった。教育学部は「Educational Management and Leadership」である。

【華東師範】 共同学位ではなく、さらに進んで、中国で初めての「共同大学」をニューヨーク大と共同で上海に初めて設立した。

【南京師範】 修士論文の口頭試問に、学問的な内容だけではなく実践に関する質問を行うようになった。構想の段階ではあるが、この試問に他国の研究者や教員を入れて、異なる視点から教育実践の問題に関して議論してもらいたい。

【高麗】 世界各地の大学に行き教育実習を行っている。ユタ州立大学とは、ユタ州立大学の教育実習を行って、アメリカで教師になる資格を得られるようにもする計画がある。

【ソウル国立】 すでにカナダのアルバータ大とダブルディグリーブプログラムを行っている。母校で1年以上勉強し、学位の指導は両校から指導教員をつける。また、最近できた学際的コースであるGlobal Education

Cooperationでは、教育開発の実践的な授業を行っている。ユネスコなどの外国などの機関と協力して、教育開発のさまざまな取り組みを行っている。

【国立台湾師範】 3つのデュアルディグリーのシステムがある。①マレーシアの短大で2年学び台湾師範大の3年生に編入する「副学士+学士」。②3年生台湾師範大で学んで学士を取り、推薦を受けてミズーリ大の修士に入学する「学士+修士」、③台湾師範大で1年、ミズーリ大で1年学ぶ「修士+修士」がある。

【国立政治】 共同学位は、あまり重視していない。学生を海外に連れて行って、できるだけ異なった授業方法に触れさせていきたい。

(2011年12月開催)

■詳細はシンポジウム報告書をご参照ください。

<http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/report/index.html>

2011年度進捗状況 (3月末日現在)

シンポジウム・セミナー

- 2011年12月9日(金)～10(土) 国際シンポジウム「国際的共同学位による新たな人材育成の可能性」(基調講演:本郷一夫教授/東北大学、講師:胡建華教授・傅宏教授・徐海寧処長/南京師範大学、徐光興教授・梁寧建教授・汪杰事務主任/華東師範大学、李家永教授・高益民准教授・黄欣事務主任/北京師範大学、林家興教授・姜逸群教授/国立台湾師範大学、詹志禹教授・馮朝霖教授/国立政治大学、李蓮淑教授・韓龍震教授/高麗大学校、李炳玟教授・宋眞雄教授/ソウル大学校)
- 2012年1月24日(火) セミナー「高等教育の国際化①」(講師:Jungcheol Shin 准教授/韓国ソウル国立大学校)
- 2012年2月24日(金) セミナー「高等教育の国際化②」(講師:朴仁雨教授/韓国高麗大学校、宋眞雄教授/韓国ソウル国立大学校)
- 2012年3月28日(水)～29日(木) 国際シンポジウム「東アジアにおける高等教育の国際化」(基調講演:本郷一夫教授/東北大学、講師:李旭光教授/大連科技学院、李篠平教授/大連理工大学、陳曦講師/華東師範大学、董存梅准教授/河北師範大学、宝力朝魯助教授/内モンゴル師範大学、梁忠銘教授/国立台東大学、關百華准教授/淡江大学、姜永培助教授/大邱漢医大学校、鄭賢卿講師/慶熙大学校)

連携事業

- 2011年12月10日(土) 高麗大学校師範大学(韓国)との学術交流協定調印式

海外調査

- 2011年9月15日(木)～20日(火) 国立台湾師範大学(台湾・台北市)、国立政治大学(台湾・台北市)、国立暨南国際大学(台湾・南投県埔里鎮)
- 2011年10月24日(月)～28日(金) 華東師範大学(中国・上海市)、北京師範大学(中国・北京市)、南京師範大学(中国・南京市)
- 2011年10月26日(水)～29日(土) 高麗大学校、ソウル国立大学校(韓国・ソウル市)
- 2011年11月17日(木)～22日(火) 全北大学(韓国・全州市)
- 2011年12月22日(木)～26日(月) 東北師範大学(中国・長春市)
- 2012年1月19日(木)～20日(金) ACA(Academic Cooperation Association) セミナー参加(ベルギー・ブリュッセル市)
- 2012年2月20日(月)～23日(木) 高麗大学校、ソウル国立大学校(韓国・ソウル市)

国内調査

- 2011年11月22日(月)～23日(火) 立命館大学(京都市)
- 2011年1月22日(日)～23日(月) 立命館大学(京都市)

プロジェクト客員教員

- Edward VICKERS 教授(英国・ロンドン大学) 2011年10月15日～2012年3月31日
- 申 正撤 准教授(韓国・ソウル国立大学校) 2012年1月11日～2012年2月10日
- 朴 仁雨 教授(韓国・高麗大学) 2012年2月6日～3月5日
- 宋 眞雄 教授(韓国・ソウル国立大学校) 2012年2月6日～3月5日
- 叶 林 准教授(中国・杭州師範大学) 2012年2月13日～9月30日
- 董 存梅 准教授(中国・河北師範大学) 2012年2月14日～3月30日
- 韓 龍振 教授(韓国・高麗大学校) 2012年2月22日～3月21日



AJP ASIA
JOINT-DEGREE
PROJECT

東北大学 大学院教育学研究科
アジア共同学位開発プロジェクト事務室
TEL: 022-795-3756 E-mail: ajp@sed.tohoku.ac.jp
www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/